

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業（研修）道外派遣
【研修レポート】

- 1 実施地区：日高地区
- 2 研修者氏名（学校名）：小野善弘（平取町立貫気別小学校）
- 3 研修実施日：平成25年11月2日（土）
- 4 研修先：熊本県八代市千丁文化センター
- 5 研修目的：これからの学校像・教師像・子ども像
- 6 キーワード：脱構築・像

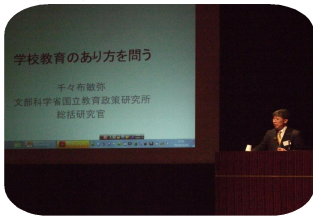
『教育の”これから”を拓く』をテーマとした日本教育新聞社主催の「教育セミナー九州2013 in 八代」～11月2日（土）八代市千丁文化センター「バトリア千丁」～へ参加、その概要を報告します。

1 基調講演「学校教育の在り方を問う」

千々布 敏弥氏（国立教育政策研究所総括研究官）

日本の授業研究の水準は高く、その強みをきちんと海外に知らせることが大事である。「授業を変える取組は、学校文化を変える取組である」と述べています。

(1) 他国から見た日本の授業研究



現在海外で実践されている授業研究のほとんどは、海外の研究者が作成したマニュアルに従っており、日本で実践されている授業研究と異なる。日本の授業研究は、教師の協働性

＜基調講演 千々布氏＞を基盤とした授業及びカリキュラムの向上システムであり、日本独自のものであり、日本の授業方法が世界レベルで賞賛され注目されている。

(2) 授業研究のよさ

研究授業の担当教師が成長する契機になるが、参観する教師や校内の全教師が成長する契機ともなっている。

①海外の実践と異なり、1つの指導案を改善するプロセスではない。

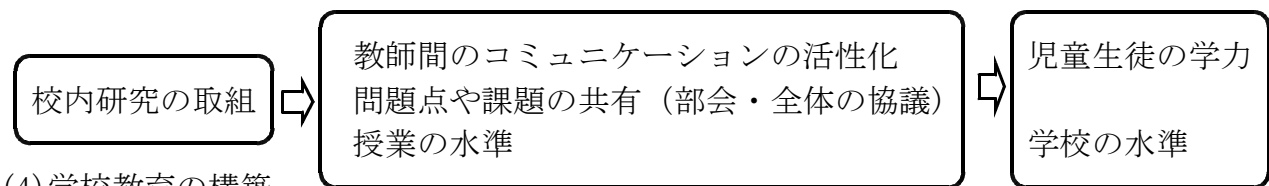
（海外では、同僚のフィードバックを受け指導案を書き直し、別のクラスで改訂指導案に基づく授業を実践している。）

②日本の授業研究は、参観者の授業観察力、授業構想力を改善するプロセスである。

（その過程に参加することで、教師たちが成長し、学校の組織文化が改善されている。）

(3) 効果的な授業研究

年間テーマを定め、複数の授業研究を実施する校内研究を推進することが、学校の水準を向上させるのは明らかである。

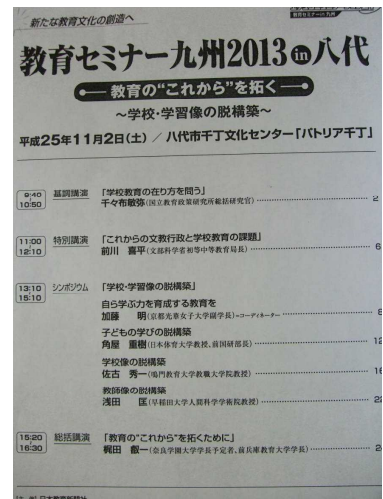


(4) 学校教育の構築

学校によって、学校経営・校内研究体制・指導案検討過程・単元構想レベルなどで改善すべき学校があり、自校の課題を意識して学校改善する戦略を構想していく必要がある。

2 シンポジウム「学校・学習像の脱構築」

加藤 明（京都光華女子大学副学長）コーディネーター「自ら学ぶ力を育成する教育を」



角屋重樹（日本体育大学教授）「子どもの学びの脱構築」

佐古秀一（鳴門教育大学教職大学院教授）「学校像の脱構築」

浅田 匡（早稲田大学人間科学学術院教授）「教師像の脱構築」



加藤氏がコーディネーターとして、シンポジウムが進められました。

加藤氏は、『学校とは、子どもが賢くなり自信がつくところであり、責任をもつ教育をしなければならぬ。各校が自立させる目標を立て、「学びの連続性」や「育ちの連続性」を明確にさせなければならない。』角屋氏は、

＜シンポジウム＞ 『今までの子どもの学びは、主体的な学習を目指してきたが、子どもが主体的になるための学習の「すべ」が十分でなかった。①基礎的・基本的な知識や技能を習得するすべ②それらをもとに考え、判断し、表現するすべ③主体的に学習に取り組むためのすべを子どもそれぞれが獲得しておく必要がある。』佐古氏は、『個業対応型の学校から組織的・協働的に取り組む学校を作ることが重要である。そのためにも、実現すべき児童生徒の課題と実現させるための教育活動の指針を明確にできる学校ビジョンをもつことと教師の学びを焦点化する研修を進めることが大切である。』浅田氏は、『「教える」という営みが教師にとっては学びの場であり、新たな知識を創出する場である。よって、専門家である教師は、「教えること」を「学ぶ」ということである。教師が持続的に学び続け成長発達を遂げていくためには、研究（理論）を理解し、自らの実践を研究できる能力が必要である。また、教師は、子を教え育むだけではなく、教師を育てるという側面も教師像として考えなければならない。教師にも、「マネジャー」と「リーダー」という2つの役割を同時に求められる。』と述べていた。シンポジウムでの4人の提言を聞きながら、学校づくりを進める上で、校長としての先を見通したビジョンの重要性、学びや育ちの連続性を明確にした自立できる目標の設定、子どもたちの主体性の育成、教師のより深く実践研究能力の向上など、改めて自校の経営を振り返り見つめ直すことができました。



3 総括講演「教育の”これから”を拓くために」

梶田 叡一氏（奈良学園大学学長予定、前兵庫教育大学学長）



『「真の自立は、独自固有の内面世界の確立が基盤である」確かな学力・豊かな心を育てるためには、常に、次のステップの学習にどのように生かされていくか、一人一人の内面世界にある感性・関心・意欲・価値観の世界を大前提にしなければ、適切で有効な働き掛けは困難である。確かな学力・豊かな心の育成のため、＜学力保証と成長保証の両全＞が実現できるよう、教師の側に、一人一人の学習者の内面世界への深い洞察が求められる。こうした内面性重視の視点を教師それぞれに身に付けていってもらいたい。』とまとめられた。

4 おわりに

「教育セミナー九州2013」に参加する機会を得て、今、求められている子ども像・教師像・学校像の在り方やそれを育てるための方策など、校長として、どのようにしていかなければいけないのか多くの示唆やヒントなどを与えていただきました。

今回、自分の学校経営に欠けていることやこれからの経営に生かさなければならないことなどをたくさん学ぶことができ、関係各位に感謝するとともに、新たな学校経営に向けて、あらゆる点について再構築を図っているところです。